



ここ数年、飛行機に搭乗する回数が増えて、1昨年の1年間に搭乗した回数が163回にのぼった。その前の1年間の150回の約10%増ということになる。飛行機に乗る楽しみのひとつに、いったん離陸し、日常の雑事の呪縛から解放された中で思わぬ方々とお会いすることがある。

昨年の11月末に東京を日帰りした時に、たまたまある先生らしい方が隣席に腰を下ろされた。当初、半信半疑であったが、プレミアム席担当のキャビンアテンダントの方々のマ

## 『知の巨人』との出会い

情報広報部

橋本 洋一

ニユアルを越えた気遣いをみて先生であると確信した。ゆつくりと食事を取られ、一台の日本酒を飲み干された頃を見はからって、「○○先生ですか？」とそうつと尋ね「そうです。」とお酒を飲んだあとの赤ら顔で答えられた。「昔はなんでも飲んだんですが、最近では日本酒ばかりです」。私がスパークリングワインを飲み干し白ワインに手をつけているのに目を向けられながら「昨日、アメリカに留学中の同窓会が東京であって、今日はS県のU高校で講演をした帰りなんです」。U高

校と聞いて私はびつくりした。私の母校だったからである。「ええっ！あなたの母校ですか？U高校は男子校でしょう。戦前、東日本では西日本のように男女共学ではなくて男女別学だったんですよ。今は男子校はS県のU高校以外ではI県のT高校、M県のS高校くらいでしょうか、昔は青森まで男女別学だったんですよ。山中教授が来月、ノーベル賞を受賞されるので、明後日、スウェーデン大使館で祝賀会が催されることになり、家内と一緒に東京に行くんですよ」。「先生、ご多忙で

しょうが、当院で講演をお願いできませんか？」どさくさに紛れてお願いした。「いいですよ。来年なら、空いている時間があるでしょう」。

先生が考案されたクロスカップリング（鈴木カップリング）に話がおよぶと「異なる有機物を結びつけることができたことが大きな特徴なんですよ。熱のこもった話が続いたが、私にはちんぷんかんぷんであった。鈴木カップリングの特徴は毒性が極めて低い有機ホウソウ化合物を用いていることで、この化合物は水にも空気にも安定であり、水中で反応させることができるので、ベンゼンやエタノールのような有機溶媒を用いることがなく、排水による環境汚染も少ない利点があるらしい。そして鈴木カップ

リング反応は目的の化合物を1つの反応容器の中で一気に合成してしまうワンポット合成に利用できるという高い効率性があるのと。

鈴木カップリングは医学の面でも臨床応用され、降圧剤ARB（angiotensin receptor blocker）のロサルタンやバルサルタンに用いられている。「今、高血圧でH大学病院で専門のT先生に診てもらっているんです。○○を飲んでいるんですよ。おかげで120/80くらいと高くないんです。」と鈴木先生。先生も先生の研究の恩恵を受けられているお一人である。4,000万人いると言われている日本人の高血圧患者の中で30%にあたる1,200万人がARBを服用している。

鈴木先生からメールが届いた。『メールと写真有り難う御座いました。11月26日ANAでお会いした後、11月28日再度上京し、昨日（11月29日）帰宅した所です。そんな訳で返信が遅れ申し訳ありません。ご依頼の講演の件は北大広報課のSさんにご連絡下さい。今日は取り急ぎお礼とお知らせのため一報させて頂きました。』

鈴木カップリングが、抗がん剤や耐性菌に対する抗生剤にも臨床応用されつつある。北の大地で育まれた研究成果が全世界の人々の健康に寄与されることは、たまたま飛行機で隣り合わせた道産子の私にとっても大きな誇りである。新年は『知の巨人』の講演で幕が開ける。